

クリスマス特集 **すべての人を照らすまことの光****やさしい光**

中等部3年 若狭 朋花

私は日常生活の中で「気づき」を大切にしています。それは、それまで見落としていたことや問題点に気づくことで、前進できると思うからです。

1年生の時、クリスマス礼拝で講堂に灯る沢山のろうそくの光を見ました。ろうそくは命を削って明かりを灯していることから、イエス・キリストの象徴とされているそうです。2年生では、コロナでオンライン礼拝になり、1年間の息苦しい生活の中でも、クリスマスの夜にはとても大切な心が温まるほのかな光に包まれました。

私はクリスマスを通して、目に見える光と心に灯る光を感じました。光はすべての人を照らしています。それに気づくことで愛情や幸せを感じると思います。聖書に「どんなことにも感謝なさい」(1テサロニケ5:18)とあるように、幸せに気づきそのことに感謝して毎日を過ごしていきたいです。そして、コロナと共存していく世の中でも「求めなさい」とあるように、努力を続ければ道は開けると信じて歩みたいと思います。

「いつも」を忘れないうちに

中等部3年 山崎 陽太郎

私の町は、12月25日になると、歩道の花屋にサンタが現れ、モミの木が光輝き、クリスマス一色に染まる。そんな日、毎年、ある一つのこと感謝している。

それは「家族」についてだ。母親から、父親から、「プレゼント」を受け取った時、私は、家族の温もりを改めて感じられる。そんな日である。

私は基本いろいろといそがしく、帰りが遅いのと、もともと引きこもり体質なので、家族とあまり顔を合わせられない時が多い。でも、クリスマスはそもそも冬休み中なのに、なぜか予定が空きやすい。なので、家族と過ごせる貴重な日でもある。家族以外と過ごすことは、本当にあまりない。なので、私にとっては家族という私を支えてくれる大切なものを改めて認識できる数少ない日である。私のクリスマスはそう大きなこともない「いつも」のそんな日である。

家族家族と言っているが、町を歩いて思うのは、私は、プレゼントを、自分だけのお金で購入したことがない。というのも、いらなそうな顔をされるのが怖いのだ。ただ、今年とはんだ小心者の私も勇気を出そうと思う。なぜなら、今年が、中学生として過ごせる最後のクリスマスだからだ。聖書に何度も救われてきた今だからこそ、私はこのような感情が持てるようになったのだと思う。町の景色も、今思うこともいつか忘れてしまうかもしれない。だから忘れないうちに今年こそは勇気を出して……。



2019年度中等部クリスマス礼拝